

令和2年度事業計画書

令和2年4月 1日から

令和3年3月31日まで

特定非営利活動法人日本移植者協議会

令和2年度 活動基本方針

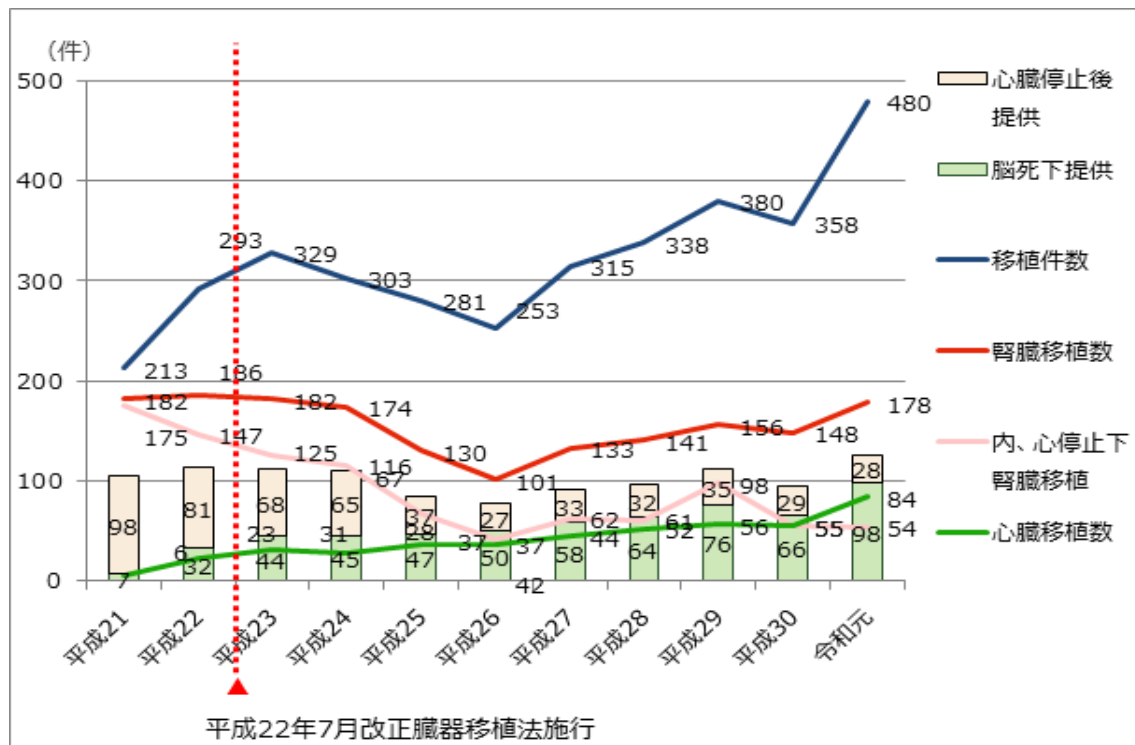
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行下における 移植者の生活の支援に資する情報の迅速な発信

令和2年度 事業計画書 総括

臓器移植法成立後、脳死下で697名の方からご提供の意思が示され、3,018名の方が臓器移植を受けられました(令和2年5月31日現在)。

臓器移植への深いご理解と善意によって臓器を提供されたドナーの方は、提供により3人から6人の方を救命されています。改めてドナーの方に哀悼の意を表します。ご家族の皆様におかれましても深い悲しみの中、臓器提供のご決断をいただきましたこと、衷心より感謝と敬意を表します。

2010年の改正臓器移植法が施行されてから脳死下でのご提供が増えた一方、脳死下、心停止下の総数でみると、僅かな増加に留まっていますが、昨年は100万人あたりの臓器提供数が1を超えました。また、改正臓器移植法の要である18歳未満の臓器提供は、昨年1年で18例で、累計で45例になりました。



〔図 -1〕 過去10年間の臓器移植件数推移（平成21年-30年）

※日本臓器移植ネットワークHPより

一方、臓器移植希望登録者数は、令和2年4月末現在で、14,251人に及びます。年々その数は増え続けています。

しかし現在、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の流行下にあり、生体移植、脳死下・心停止後臓器移植の施行は極めて慎重に対応せざるを得ません。また、ワクチン・治療薬の開発が各施設において全力で行われているものの、遠隔期の臓器移植者にとっての重症化リスクを考慮すると、一般の方と同様の生活を送ることは現状のままでは困難です。厚生労働省を中心とした関係機関には、臓器移植者・待機者に対するきめ細やかな対応を要望してまいります。

令和2年度事業概要

2020年1月下旬、日本で初めてのCOVID-19患者の発生が報告され、以後全国に感染者が広がり、4月7日に緊急事態宣言の発表がされました。COVID-19に関連し、日本移植学会からは「移植患者が免疫抑制下で COVID-19 が重症化しやすいことのみならず、ドナー由来の COVID-19 の伝播が現時点で否定できないことから、生体移植、脳死下・心停止後臓器移植施行や移植後の患者管理で慎重な対応が求められる（後略）」と指針が示されております。

現在、日本では未だCOVID-19の流行下にあると認識せざるを得ません。感染した際の重症化リスクを考慮すると、当法人の事業としましても、会員および一般の方と一堂に会する場を設けることは非常に困難な状況にあります。そこで本年度の事業展開として、WEBを幅広く活用して多くの情報を発信していくことが、会員の皆様のみならず一般の方のためにも必要です。また、感染症の流行による臓器移植者の思いや要望を関係機関へ発信することは、当法人において極めて重要であり、それに向けた活動をしてまいります。

しかし、当法人の事業展開のためには財政の立て直しと健全化も必要です。関係各所にご迷惑をおかけしておりますが、何卒ご協力を切にお願いいたします。

本年度の事業進行につきましては、安全面と財政面を考慮しながら、会員の皆様へ必要な情報を、即時性をもって提供してまいります。

1. 臓器移植の啓発・推進活動として

私たちは臓器移植を受けた人たちが主体となって構成されており、臓器移植のすばらしさを、身を持って感じています。しかし、まだまだ社会の臓器移植、臓器提供への理解は十分ではありません。普及啓発は一朝一夕に成されるものではなく、5年、10年の長期スパンを展望しながら不断の努力をしていくことが大切と認識しています。本年度も、COVID-19の状況を鑑みながら、日本移植学会、公益社団法人日本臓器移植ネットワークや一般社団法人全国腎臓病協議会、地域の臓器移植推進団体、患者団体、各自治体と協力し、一般社会への普及啓発に取り組んでまいります。

◆ 移植を受けた子どもたちの作品展～ギフト・オブ・ライフ～

この活動は、臓器移植の素晴らしさを伝える上で極めて有効な手段と考えております。臓器移植を受けた子どもたちの生き生きとした作品は、ご覧になる方たちに感動を与えることができます。作品は、移植を受けた子どもたちが描いた絵画等に加え、国際漫画シンポジウムの際に寄付していただいた作品も含まれています。本年度も引き続き展示の貸出事業を実施し、自治体や臓器移植医療推進施設等から申込をいただき、作品の授受を行っていきます。積極的に開催を呼びかけとともに全国移植者スポーツ大会、世界移植者スポーツ大会の写真展などと併せたものを推奨貸出します。

しかし、作品の経年劣化に対する修正および維持・管理のための費用がかさんでおり、本年度より貸出の際に維持管理費を徴収させていただくことといたしました(1000円/1貸出)。関係者の皆様にはご迷惑をおかけすることとなりますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

◆ 全国移植者スポーツ大会

毎年、移植者の方はもちろん、そのご家族の方、医療者の方と多くの方にご参加いただいております。さらにはドナーファミリーもお招きし、臓器移植によって元気になった姿を、スポーツを通じて一般の方に伝えたいという思いから日本移植者スポーツ協会が中心となり当法人が協力支援し開催しております。

本年度は福井県敦賀市において開催予定でしたが、COVID-19の流行につき、中止とさせていただきます。大変心苦しい決定ではございますが、ご参加・ご協力いただく皆様の安全を第一優先とした次第です。楽しみにされていた方には申し訳ございませんが、安全に開催できると判断できるまで、しばらくお待ちください。

◆ グリーンリボンランニングフェスティバル

毎年10月に、一般社会へ臓器移植の素晴らしさを伝えるためのマラソン大会を開催しております。当法人が主催（実質的な運営は、東京新聞・東京中日スポーツおよび一般社団法人東京陸上競技協会）する最大のイベントです。本年度は10月11日（日）に駒沢オリンピック公園陸上競技場及びジョギングコースで開催予定ですが、COVID-19の状況により変更となる場合があります。決まり次第ホームページ等でご案内させていただきます。

◆ 支部活動

本年度は一堂に会するイベントの開催は困難であることから、各支部での活動も必然的に縮小・中止・内容の再考をせざるを得ません。現時点での状況を記載いたします。

☆大阪支部

毎年中之島まつり（5月3日～5日）大阪市北区中之島公園一帯においてNPO法人大阪腎臓

病患者協議会やシニアライオンズクラブ、同志社大商学部（瓜生原教室）などの協力を得て、啓発グッズ及びアンケート等の記入を通じて臓器提供に関する本人の意思表示記入率を高める啓発を行っておりますが、本年度は中之島まつりのイベントそのものが中止となりました。

10月に大阪府・大阪市臓器移植推進キャンペーン、堺まつりなどにおいて、臓器提供意思表示カードの配布などの普及啓発を推進します。これらも、今後イベントの変更の可能性あります。

作品展の展示において、堺市役所、大阪モノレール「蛍池駅」構内での展示を行います。

☆東海支部

2020年5月31日に開催を予定していた「ドナー慰霊祭」は、国内における新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し中止致しました。次年度の開催については当法人のホームページ等で紹介していきます。

☆鹿児島支部

昨年と同様の市民公開講座については現状では困難ですので、後述のWEBセミナーとして、開催予定です。移植を受けた子どもたちの作品展も行政の協力を得ながら、実施できるよう進めます。

◆ 第7回全国臓器移植者実態調査

当法人では4年に一度当法人で実施している移植者実態調査を行っております。前回（第6回、2015年度実施）は全国から385の回答を回収できました。昨年度第7回移植者実態調査を開始しましたが、COVID-19の流行に伴い、アンケート回収期間を延長し現在も受付中です。

本調査は全国規模である当法人だからこそ実施できる事業であり、さらに移植者の思いそのものをくみとれる極めて重要な調査と位置付けております。本年度も、本調査をもとに関係機関への要望書のとりまとめや関連学会への演題発表を行ってまいります。

2. ドナーおよびドナーファミリーが尊敬される社会を目指して

当法人は「ドナー及びドナーファミリーが尊敬され、温かく迎えられる社会の形成なくして臓器移植医療の発展はない」と発信してまいりました。本年度は一堂に会するイベントを実施するのは困難ですが、開催方法を検討しながら、引き続き行っていきます。

◆ WEB感謝の集いの開催

昨年度開催できなかった感謝の集いをWEBによって改めて開催いたします。

移植者・ドナーファミリー・医療者によるWEB講演と懇親会を行う予定です。

私たちは、ドナーとドナーファミリーが尊敬され、提供が尊いことだと認識される社会の実現を目指しています。その時に、社会全体にどのような変化が起きているかを参加者同士で語り合います。

◆ ドナー慰霊祭の開催

当法人は、移植で健康を取り戻した患者として「純粋な感謝の気持ちを形に表したい！」という思いをあらわすため、毎年 5 月の最終日曜日に東海支部によるドナー慰霊祭を覚王山日泰寺（愛知県名古屋市）において開催致しております。本年度は COVID-19 の状況を考慮し開催を中止致しました。次年度の開催予定日は 5 月 30 日となりますが、COVID-19 の状況を考慮しつつ開催の可否、合わせて開催方法についても検討していきます。

◆ ありがとうの日

世界移植者スポーツ協会による fit for life の日本における企画として、毎月 10 日を「ありがとうの日」とし、レシピエントが「ありがとう」の文字が記載されたボードを持ちドナーに感謝を伝えます。この企画はブログや Facebook 等を中心に展開しております。2020 年 5 月 10 日現在、46 名がメッセージを送っています。会員の皆様も是非、仲間にお入り下さい。ご連絡をお待ちしています。

(<https://jitrariga10.blogspot.com/>)

レシピエントの間で輪を広げるだけでなく、レシピエントが感謝の声を上げることで「ドナーあつての移植医療」であることを社会の多くの方に実感して頂きたいと思えます。

※昨年度まで実施しておりました fit for life 企画の「移植 DE 散歩」は、COVID-19 の状況を鑑み、本年度は開催を見合わせます。

☆全国移植者スポーツ大会、グリーンリボンランニングフェスティバル等の他の事業においても、スポーツを通してドナーへの感謝の思いをお伝えします。

3. 関係機関及び社会への訴え

これまでも、臓器移植推進のために当法人での学会・研究会活動および声明の発表に加え、臓器移植患者団体連絡会の一団体として各患者団体と協力しながら、臓器移植に関する要望書の提出等を行ってまいりました。本年度も昨年までと同様、臓器移植者・待機者のために他の患者団体と協力しながら活動を行ってまいります。

◆ 厚生労働省等関係機関への要望書

COVID-19 の流行下において、免疫抑制剤を服用中の臓器移植者は感染による重症化リス

クが高く、臓器移植者団体として現状や思いを訴えることは非常に重要です。当法人ホームページでCOVID-19に関するアンケートを実施中であり、臓器移植者としての現状をとりまとめております。また、昨年度末から、第7回全国臓器移植者実態調査を実施中であり、他の患者団体と協力しながら移植者の要望を取りまとめます。

◆ 関連学会

関連学会への参加と演題発表は、医療者や関係機関の方々への移植者の情報発信として極めて重要であると考えております。また、学会で得られる最新の内容を当法人会員へ情報提供していくためにも重要であります。本年度も関連学会へ参加し、情報提供・情報発信を行います。

◆ COVID-19に関連する当協議会の声明

免疫抑制剤を服用中の臓器移植者は、未知の感染症に対し強い恐怖感を抱いています。予防ワクチンや治療薬の開発に向けた取り組みが全力でなされている一方、移植者にとって安全に使用できることが確認できない限り、不安は拭えません。

すでに当法人では「緊急事態宣言の解除を受けて」の声明を発表しております。今後も情勢を注視しながら、当法人としてできることを行っていきます。

4. 会員の方、一般の方へ向けた情報提供として

本年度は、COVID-19に関する情報の提供を優先していきますが、臓器移植に関する情報も伝えていきます。会報に加え、ホームページ、WEBを活用し、会員の方に伝えていきます。また、一般の方に対しても、臓器移植について理解を深めていただけるような情報発信に努めます。

◆ WEBセミナーの開催

COVID-19の流行に伴い、従来の形式でのセミナー開催は困難な状況です。そのため、会員が求めるテーマに応じた専門の講師を招き、WEBにてセミナーを開催いたします（ZOOMを使用する予定）。

◆ 会報誌（JTR ニュース）の発行

本年度は財政的に厳しい状態であること、および COVID-19 の流行による必要な情報の遂次性を考慮し、定期的な発行は 2 回とさせていただきます、別途、会員の皆様に必要な情報を編集委員がその都度検討し、臨時号として発行することを目指します。

◆ ホームページ内容の充実

当法人の紹介や活動内容の報告、また今後の活動情報を会員の皆様だけでなく非会員の方へも提供。現在、ホームページより COVID-19 に関連するアンケートを実施しており、アンケート内では近況についての情報収集も行っており、関係機関および学会への要望書の作成に役立てております。より臓器移植者および待機者の方、一般の方へ魅力的なホームページを構築していきます。

◆ 会員向けメールマガジンによる情報発信

会報誌 JTR ニュースの発行に加え、即時性のもつメールを会員向けに発信。会員の方のメールアドレスにメールマガジンを発行し、会員の皆様とのさらなる情報の共有を行っていきます。内容も移植関連情報から各地域だよりなど幅広く取り扱う予定です。

◆ 公式 LINE アカウントからの発信

メールマガジンによる発信に連動し、日本移植者協議会公式 LINE アカウントを作成し、情報発信を行います。主に当法人の活動について発信していきます。

◆ 動画配信サービス内容の充実

2020年5月より、YouTube による動画配信を開始しました。現在、運動不足解消のためのヨガ動画を6本配信中です(2020年5月末現在)。今後さらにコンテンツを増やし、情報提供を行っていきます。

◆ SNS による情報発信の充実

日本移植者協議会ホームページと連動し、会の紹介や活動内容の報告、また今後の活動情報を会員および関係者・一般の方へも提供します。現在、SNS は Facebook のみを使用しておりますが、今後は Twitter、Instagram の使用も検討します。

◆ 相談業務

電話及びインターネットによる相談業務は減少してきていますが、今後も引続き相談者の立場に寄り添った極め細かく、迅速で丁寧な対応を行っていきます。

また相談内容については、社会労務士の西川先生にも協力を求めます。

5. 会員の方の交流の場として

会員の皆様が一堂に会することは困難な状況ですが、このような状況だからこそ移植者同士の交流の場が必要と考えております。開催方法を検討中ですので、決定次第ご案内させていただきます。

◆「WEB語りの場」の開設

COVID-19の流行に伴い、移植者同士の交流の場が設けることが困難となっています。そこで、テーマを設けた上で、WEBにて語り合いの場を提供していきます。

6. 組織運営として

当法人の財政のうち、約19%が個人の方・法人様からのご寄附によるものです。年々、ご寄附による収入が減少してきており、事業運営原資の確保が困難な状況にあります。本年度は事務所の縮小、固定費の削減、労務費の削減を行い、財政規模に応じた事業計画の見直しを行っていきます。

◆事務所の整理、縮小

当法人は現在事務所を二部屋所有しておりますが、財政状況が厳しい中、経費削減のため、事務所を一部屋にし、賃料削減を図ります。また、本年度中に事務所内を整理し、不要なものは廃棄し、また必要なもので普段使用しないものに関しては、理事より会社倉庫の無償提供があり、そこへ保管することといたします。

なお、作品展で使用する作品の原本は、理事宅にて保管しています。

◆組織

上記の各事業計画をすすめ、より魅力的な法人となるよう努めます。また、会員増による会費収入増を図り、会費による運営原資の割合を高めていきます。一方、運営組織自体の縮小傾向・高齢化もあり、組織強化のためにはより一層の情報共有と幹事一人一人の協力体制が欠かせません。

厳しい運営状況にはありますが、COVID-19による各イベントの開催方法の再検討を行うべく、会員皆様のお力添えが不可欠です。些細なことでも結構ですので、ご意見・ご質問いただければ幸いです。何卒ご協力をお願いいたします。

◆運営・連絡体制

昨年度より、理事間の連絡および理事会は現在すべてWEBを使用しております。また、昨年度よりメーリングリストの再構成、当法人問い合わせ先のメールアドレス変更による情報の共有化をすすめており、連絡があった際の速やかな情報共有を行っております。

本年度も理事会は定期的な開催に努め、意思疎通を図っていきます。

◆財政

昨年度、事業費借入金（未払金）が重なっております。本年度における事業において、予算を超えるものは縮小または中止とし、黒字を目指します。黒字となった分において、借入金（未払金）の支払いを行います。

◆ 事務局

現在、事務所内において、概ね週1回業務を行っています。本年度も、会報誌の発送作業、作品展の発送作業、その他郵便物の処理、FAX、来客の応対等を行っています。

7. その他

◆ 調査・研究事業及びその事業に倫理的裏付けを付与する活動の検討

当法人では関係機関への要望や学会報告を行うために、移植者実態調査やWEBアンケートを実施しております。今後これらの調査・研究をするにあたり、関係者の方との協力はもちろんのこと、より科学的根拠や倫理的な裏付けを付与していく必要があります。倫理委員会の設置を検討し、より調査・研究を力強く進めていきます。

◆ 寄附の募集（ネットバンキングの活用）

これまでも個人・法人問わず様々な方のご厚意による寄附をいただき、活動に役立ててまいりました。寄附についてはこれまで振込用紙でのみで受け付けておりましたが、寄附を頂く方のご負担を減らすため、口座のネットバンキングを活用していきます。

◆ 事業整理（グリーンリボン自販機設置）

グリーンリボン自販機は提携業務先の協力によって愛知県を中心に約50台が設置されました。現状一部自販機の稼働はされていますが、寄附金としての収入は5年ほどありません。自販機の連絡先から現状の管理状況を確認したうえで、事業として継続できないと判断した場合、廃止といたします。

以上